

学術情報センターだより

Library and Information Technology Center, Nagoya Women's University

ことばの素

服部 幹雄 (言語学)

大学生が「文法」と聞いてまず連想するのは、あまり役に立たない煩瑣な規則の寄せ集めといったところでしょう。文法の勉強とは言語事象に文法用語を当てはめ、それを記憶することだと考えている学生は少なくありません。

しかし、現在めざましい発展を遂げている言語学では、規範として暗記を強いられる規則の集合ではなく母語話者が正しい文のみを作り出す能力の元になる規則の集合を「文法」と考えます。私たちは母語で常に新しい文を創造していますが、それが可能なのは頭の中にことばを作り出す規則の体系があるからだと考えられます。母語であればある文が正しいかそうでないかが直観的に判断できるのも何らかの規則の体系が私たちの頭の中にあるからにほかなりません。

- (1) 太郎は母親に自分が留学することを言わなかった。
- (2) 太郎が買った本が自分には気に入らない。

たとえば、日本語を母語とする者なら小学生であっても(1)の文では「自分=太郎」であるのに(2)の文では「自分」は「太郎」を指していないことが直観的に分かります。アメリカの言語学者 Noam Chomsky によって提唱された生成文法は、この母語話者が頭の中に備えている、文が適格か不適格か瞬時に判断できる能力を、言い換えればその背後にある言語の規則の体系である「文法」を解き明かそうとするものです。

この考えに従えば、英会話ブームの中で一時猖獗を

極めた「文法を知らなくても英語は話せる」という主張はまったく意味をなしません。外国語を学ぶとは、とりもなおさずその言語の文法を学ぶことですから、この主張は文法にとらわれすぎてはならないという意味の逆説的表現と考えるべきでしょう。

子供が母語の文法をわずか数年で習得してしまうのは、大人になってからの外国語習得の苦勞を考えれば驚異というほかありません。その秘密は、人間は生まれながらに普遍文法とよばれる「ことばの素」を頭の中に持っており、各言語（たとえば日本で生まれ育った場合は日本語）の刺激を受けると、そこからその言語固有の文法が出来上がってくるというものです。つまり、人間は無の状態から言語を習得する能力を獲得するのではなく、その能力のかなりの部分はすでに生得的に備わっていると考えるわけです。

ライブラリーには、古今東西を貫くさまざまな資料が備えられています。書き言葉で表現された書物もあれば、話し言葉が主役の放送やDVDもあります。それらに接することはまさに人間の多様な知性の営みに触れることでしょう。しかし、このような人間の知性の結晶が、どの人間も例外なく生まれながらに備えている「ことばの素」に還元されるとしたら、「ことばの素」の解明もまた人間を人間たらしめている知性を解き明かすことになりはしないでしょうか。ライブラリーに入るたびにこの思いを新たにします。

◎ 目 次 ◎

巻頭言「ことばの素」	1
WebCT 利用状況と今後の学習支援について	2
「学びのスクラム・ネットワーク」サイバーキャンパス整備事業に参画して	3
〈資料紹介〉The Englishwoman's Domestic Magazine	4
講習会実施報告	5
ライブラリーのテーマ展示	6
学術情報センターのホームページについて	6
意見箱を設置しました！	6

◆ WebCT 利用状況と今後の学習支援について ◆

1. 平成 18 年度の WebCT の利用状況

平成 18 年度前期は 8 月までに 90 のコースが開設され、昨年度比約 1.5 倍の延べ 11,707 人の利用がありました。学外からの利用が約 77 % を占め、自宅からの利用が定着しつつあるようです。学部別の利用割合では家政学部が目立っています。

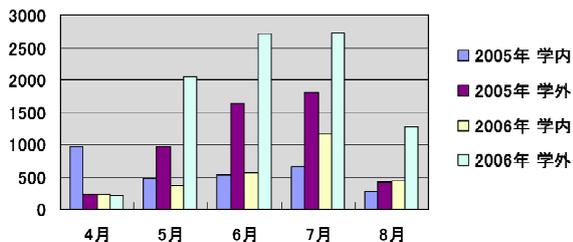


図 1 平成 17 年前期と 18 年前期での利用者数の推移

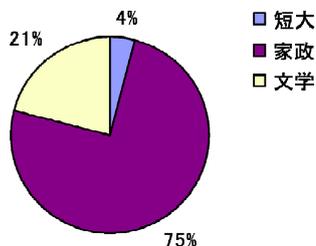


図 2 学部別利用者割合

- (3) WebCT の利便性についての問いでは、自宅からも利用できることが評価されているようです。また不満な点については自宅からの接続性についての意見がありました。
- ・授業の復習ができること
 - ・気軽にいつでも利用できる
 - ・過去問題の利用等自分で積極的に勉強することができた
 - ・自宅から課題提出ができる
 - ・自宅からでは接続できないことが度々ある
 - ・操作性が悪い
 - ・どの PC からでも講義映像を見られるようにして欲しい
- (4) 講義映像についての問いでは約半数が役立ったと回答しましたが、視聴できる講義映像が無かったという意見も多数上がりました。

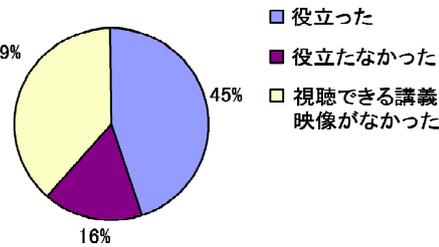


図 5 講義映像は役立ちましたか？

2. アンケート中間報告

学術情報センターでは情報基盤に関するアンケートを 9 月末まで実施しています。ここでは WebCT の利用に関する部分を中間報告としてご紹介します。

- (1) WebCT をどのような目的使用したのかの問いでは課題での利用が多数を占めました。

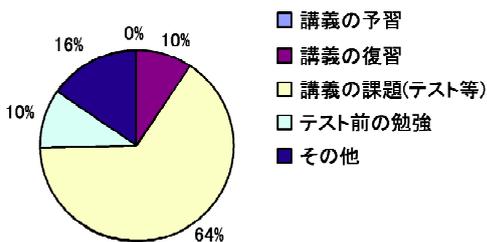


図 3 WebCT を主に何で利用しましたか？

- (2) WebCT が役立ったかの問いでは、約半数の学生が役立ったと回答しました。これは次に挙げる WebCT の利点が理由になっていると思われます。

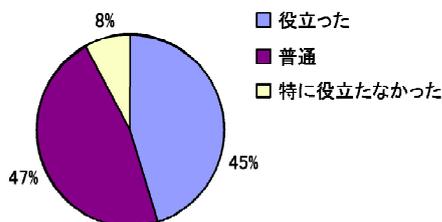


図 4 WebCT はあなたの学習活動に役立ちましたか？

3. 学習支援環境の整備

学術情報センターでは平成 19 年度に向け、以下のような学習支援環境の整備を検討しています。

(1) WebMail の導入

来年度に向けてブラウザを用いたメールソフトの導入を検討しています。現在、電子メールの使用は学内に限定されていますが、自宅からも利用できることで、利便性が高まることが期待されます。



図 6 WebMail の外観

(2) 無線 LAN の導入

自分の PC を大学に持参し学習活動に利用できるよう、インフラの整備を検討しています。

「学びのスクラム・ネットワーク」 サイバーキャンパス整備事業に参画して

國松 己歳 (家政学部食物栄養学科教授)

時間空間を越えたインターネット利用は今や豊かな生活を支える嫁入り道具、花嫁の教養となり、グローバルでユビキタスなテラシーになってはいないだろうか。学術情報センターを核に構想した「学びのスクラム・ネットワーク」は、平成15年度文部科学省「サイバーキャンパス整備事業」に応募し、みごと採択されました。その志は今も続いています。今回はその経緯と成果、現状をお伝えします。

平成15年度といえば私は本学に転任したばかりの時期で、その6月にこの事業を推進する「サイバーキャンパス構築プロジェクトチーム」が立ち上がりました。前任校でパソコンやネットワークの黎明期から学内情報センターの委員として活動してきた経歴が目についたのか、学長からそのアクティブメンバーに指名されました。メンバーには新任教員の顔ぶれが多く、これは学びのスクラムを成功させたいがための大学の意志でありプロローグでした。既成概念や伝統のしがらみに縛られることなく新人ゆえのメリットが生かされ、知恵を搾り、アイデアを出し、私欲もなく正義感に燃え、「親切」を実行し、前向きに議論し学生や教職員を一体化した「学びのスクラム・ネットワーク」が会議を重ねるごとに完成してゆきました。大政奉還に似た国公立大学独立法人化の嵐の中をすり抜けてきた私は、サイバーキャンパス整備事業に参画して、時代を先取りしたい本学の姿勢から成長・発展への意欲を感じ取りました。プロジェクトチームに本学の将来を託す学長の姿勢に私学台頭の時代がきている兆しを体感し、期待に応え平成15年7月末には文部科学省に提出する立派な構想調書が仕上がりました。秋には我が校を含め全国16校がサイバーキャンパス整備事業に採択されました。国からの大型補助金を活用し講義室へのプロジェクター等、マルチメディア機器の導入やリアルタイムで遠隔授業を行う教室の整備、学生や教員が自宅からインターネット経由で利用可能なe-Learningシステムなどのハード面が瞬く間に設置されました。同じ目的に向かい、学部や学科、教員と職員の壁を越え、協力し合いながら進める実行力、スピードの速さには小回りのきく私学の良さが遺憾なく発揮され、まさにヒューマンネットワークが機能しました。汐路・天白両キャンパス間の遠隔授業の実施や画像解析ソフトウェア・遺伝子情報処理ソフトウェアの活用、音声を使った音楽理論学習システムの構築等のコンテンツが蓄積され学生に提供できるようになりました。そして、デジタル・コンテンツ作成支援ソフトウェアで作成したコンテンツをWebCTで学内外に配信できるようになりました。ID登録した学生はいつでもどこからでも講義用資料及び講義映像の閲覧や国家試験対策学習(e-Learning)、電子掲示板による教員への質問やディスカッションができるようになりました。本システムを国家試験対策の勉強に自宅から休日でも利用できるようになり、平成16年度卒業生の管理栄養士国家試験合格率は93%に跳ね上がり東海3県でトップの成績を維持しました。さらに平成17年度卒業生に至っては、その合格率は98.6%となり、全

国第三位に躍り出ました。この快挙の背景には、学生自身の意欲、集中力、継続力、決して諦めない気持ち、大学の意志である学びのスクラム・ネットワークが作用したと思われる。

本学は今年から食物栄養学博士を育てる器を社会に提供し、私学の公的な役割が国民に学位を授ける唯一の機関であることをアピールしています。幼中高大院一貫教育の学園最高学府の場でサイバーキャンパス事業の恩恵を受け未来の学士、修士、博士が育まれます。本学の管理栄養士国家試験合格率は全国でトップクラスとなり管理栄養士養成校として成功を取っていますが、本学の外部研究資金獲得率から推測すると大学教育の基盤となる大学院教育へのパスウェイはどうか。本学が初めて経験する博士課程学生の研究能力を高めるシステムの構築、支援体制をいかにするか。教育の質の向上に繋がる研究体制、獲得した外部研究資金を活用できるシステム作りなど、この学びのスクラム・ネットワークは未体験ゾーンに突入しています。転任後しばらく講義・学生実験などに追われ研究は一時中断しました。研究をしない日々は非日常的で何とも気楽でサバチカルな時でした。しかし今や学生や大学院生に研究面でも質の高い親切を提供できることが本学の質を高め、大学の生き残り戦線に勝利する重要な課題になっています。いい研究を世間に発信し大学の質の高さをアピールすることに異論はないであろう。そこで学生の知的能力の高度化を目的にプロフェッショナルとしての科学的探究心や実践能力、問題分析・問題解決能力を学生に身につけさせるため、バイオインフォマティクスを活用した研究を再開しました。研究から教育へのシフトはいつも容易でしたが研究への復帰には随分苦労しました。研究の質の向上に学びのスクラム・ネットワークをどう生かすか。嬉しいことに、この3年間サイバーキャンパス事業の恩恵を受けて育った学生は今やWord, Excel, PowerPoint, Googleは言うまでもなくWebCT, Genetyx, PubMedなどを使いこなすようになりました。卒業研究発表会で専門性の高い内容を色彩豊かな画像データで提示し、原稿を読まずに堂々と発表するゼミ生の勇姿は、研究のシーズが蒔かれ、その芽が確実に成長していることの現れです。それぞれの就職先で名女大はネットに強いねっと、ネチケットを心得ているねっと、高い評価を得るにちがいない。嫁ぎ先でうちの嫁はネットができるねっとと重宝がられ、得意げな彼女たちの笑顔が目につくのは学びのスクラム・ネットワークメンバーである私の特権であろうか。

以上3年間の成果を文部科学省に提出し、総合所見で「A」という高い評価を得ました。では講義のネット配信、100問試験/120分間、マークシートリーダーで即採点、成績をWebCT上に即公開、質問や課題はメール、そんなアクティブメンバー先生の学生による授業評価は？ 文部科学省認定大学院研究指導〇合先生の総合所見はどうか？ それはどちらでも「A」じゃないか。

◆ 〈資料紹介〉 The Englishwoman's Domestic Magazine ◆

木原 貴子 (イギリス文化)

The Englishwoman's Domestic Magazine という雑誌の名前は、直訳すると「イギリス女性のための家庭雑誌」であるが、日本で再版されるにあたり『ビートン夫妻のヴィクトリア朝婦人生活画報』という邦題がつけられている。そこで「ヴィクトリア朝」「ビートン夫妻」「婦人生活画報」という言葉をキーワードにして、この雑誌を紹介したい。

本雑誌は 1852 年にイギリスで創刊された。当時のイギリスは、1837 年に即位したヴィクトリア女王のもと、産業革命や植民地政策等により、同国史上最も繁栄した栄光の時代にあった。また、女王と夫アルバート公との仲睦まじい結婚生活は、国民憧れの「理想の家庭」ともなっていたのである。その中で、(良くも悪くも)「ヴィクトリアニズム」と呼ばれる、この時代特有の道徳観や価値観(勤勉、精励、自制、自己開発等)、それに基づく生活様式が生まれたのである。すなわち、「ヴィクトリア朝」という言葉は、単に 19 世紀の後半という時代を指すだけでなく、イギリスの繁栄とそれを甘受する国民生活を意味しているのである。

ビートン夫妻とは、この雑誌を刊行した出版社を営むサミュエル (Samuel Beeton, 1831-77) と妻イザベラ (Isabella Beeton, 1836-65) のことである。サミュエルも様々な雑誌を世に送り出したが、この雑誌に「ビートン」の名が冠されているのはイザベラの知名度を意識してのことである。というのも、彼女がこの雑誌に寄稿した記事を編纂し出版した著書『ビートン夫人の家政書』(*Mrs. Beeton's Book of Household Management*, 1861) は、7年で 200 万部を売り上げ、現在でもイギリス人家庭で「聖書について多く架蔵され、愛読されている本」と言われているほどの大ベスト&ロングセラーだからである。しかも、この本は、激しく変化する社会の中で、女性の道徳観や価値観の形成に大きな影響を与え、同時に、生活向上の実践的な手本となるなど、「ビートン夫人」という言葉がヴィクトリア朝の道徳律を代弁する代名詞となったほどである。

創刊号の巻頭には、刊行の目的として「家庭を幸せにする」(“home happy”) ための蘊奥を究めたいと願う女性を支援することを挙げている。この言葉には、女性にとって幸福の礎は家庭にこそあり、女性の果たすべき役割は家庭をより豊かにすることだという当時の社会思潮が反映されている。すなわち、

産業革命以後に本格化した、社会における男女の性役割の分化(男性は仕事、女性は家庭)をより定着させ、一層押し進めていくこと——その手助けをすることがこの雑誌の役割なのである。ここで注目すべきは、この雑誌名が「レディ」ではなく「ウーマン」だということである。つまり、この雑誌が読者としてターゲットにしているのは、時代の立て役者であり、性役割の分化に最も敏感に反応した「ミドル・クラス」の女性たちということである。彼女たちこそが「ヴィクトリア朝の道徳律」を課せられ、体现者として期待された存在だったのである。

しかし、この雑誌の重要性と魅力は、ヴィクトリア朝のジェンダーに関する研究に有用であるだけでなく、数多くの図版や挿絵とともに当時の家庭生活を詳細に知ることができる点にある。マナーやエチケット、刺繍や裁縫、料理、文学作品、健康と美容、身の上相談など、様々なコーナーが設けられ、多くの読者の心を捉えた。例えば、本格的な料理やデザート の作り方が分量表示と挿絵付きで丁寧に解説されている料理レシピ (“Receipts for Cookery”) や、フランスで流行している服を自分で縫えるように型紙のついた「実践裁縫教室」 (“Our Practical Dress Instructor”) などは、正しく「生活画報」と呼ぶに相応しいものである。また、「おばあちゃんの知恵袋」とも言える「知る価値のあるもの」 (“Things Worth Knowing”) と題されたコーナーには、ドライフラワーの作り方や家具の傷直しの方法などが詳しく説明されている。さらに、やけどや擦傷の処置などを解説する「家庭の医学」 (“The Sick Room and Nursery”), 口臭予防や髪のお手入れ方法などを扱った

「化粧室」 (“The Toilette”) など、家族の健康や女性の美容に関する記事も充実している。一方、「キューピッドの手紙袋」 (“Cupid's Letter Bag”) と題された読者の投稿欄には、「エリートの男性と付き合っているがふられそう。どうしたら良いか」などの悩み相談とそれに対する編集者の回答が掲載され、絶大な人気を博していた。

このように、この雑誌は、イギリスと日本という空間的隔たりや 150 年という時間的隔たりを超え、様々な視点から私たちを学ばせ、楽しませる魅力に満ちているのである。

(所蔵: 天白 請求番号: 367-1984-4-1)



雑誌のとびらに掲載された挿絵

講習会実施報告

◎ J-Dream II 講習会

学術情報センターでは、去る 7 月 5 日(水)～6 日(木)の 2 日間にわたり、ライブラリーホームページから提供しているデータベース「J-Dream II」の講習会を開催しました。1 日につき同内容の講習(80 分間)を 2 回ずつ行う形式で実施し、2 日間の合計受講者数 95 名と、多くの方に参加していただきました。

今回の講習会では、データベースの紹介と検索のみにとどまらず、その後必要な情報を入手する方法まで含めて知ってもらうことを目的とし、内容を構成しました。具体的には、まず「J-Dream II」の概要説明・講義を外部講師からしていただき、並行して検索実習を行いました。それに加え、論文を検索してから実際に入手する方法について、学術情報センター職員から説明しました。

8 月には「J-Dream II」へのアクセス件数が前月比の約 3 倍になるなど、講習会の効果はあったようです。今後も、各種データベースの講習会を企画する予定ですので、興味のある方はぜひご参加ください。

なお、今回講習を行った「J-Dream II」は、国内外の自然科学系学術論文を日本語で検索できるデータベースであり、以前より提供していた「J-Dream」をバージョンアップしたものです。新機能の追加や画面表示等の変更点が多数あります。学内のどの PC からでも利用できますので、ぜひ使ってみてください(URL: <http://lsic.nagoya-wu.ac.jp/dbkensaku.shtml>)。質問などありましたら、お気軽にライブラリーカウンターまでどうぞ。



J-Dream II 講習会(7月5～6日実施) 講義風景



J-Dream II トップページ

◎ 平成 18 年度 IT 講習会

学術情報センターでは毎年、学内の IT 化を支援するための講習会を開催しています。近年 WebCT を初めとした e ラーニングが盛んになってきましたが、マルチメディアコンテンツがまだ少ないということで、今回は 8 月 7 日(月)から 9 日(水)の 3 日間の日程で、マルチメディアを題材とした講習会を開催しました。主な内容は下記の通りです。

- ・ Paintshop (写真の編集/加工やイラスト作成等)
- ・ MovieMaker (デジタルビデオを PC に取り込み、動画の編集/加工等)
- ・ PowerPoint (マルチメディアを活用したプレゼンテーション資料作成)

今回は授業に関わる方に限定させていただきましたが、3 講座とも参加者はほぼ定員の 15 名でした。短期間の講習では全ては網羅できなかったかと思いますが、今回使用したソフトは全演習室に入っていますので、これを機会に色々お試しいただければと思います。ビデオカメラは学術情報センターで貸与しています。また天白学術情報センターライブラリーでは、MovieMaker での画像処理も可能なノート PC の貸与をしております。ぜひご利用ください。

学術情報センターでは冬季にも IT 講習会を予定しています。冬季は例年通り OFFICE ソフトを扱う予定ですが、ご要望等あればぜひご意見ください。



夏季 IT 講習会(8月7～9日) 講義風景

ライブラリーのテーマ展示

ライブラリーサービスでは、テーマに沿った内容の資料を展示する「テーマ展示」を、汐路・天白のライブラリーで開催しています。展示期間中でも展示してある資料の貸出は可能です(館内閲覧資料は除く)。過去に行ったテーマ展示は以下のとおりです。

過去テーマ展示一覧

第1回	洋菓子
第2回	映像化された小説・映画の世界
第3回	能と狂言の世界
第4回	レポートから卒論・修論まで～図書館活用法～
第5回	問題な日本語～日本語いろいろ～
第6回	世界中が注目！ ドイツ
第7回	資格

展示していた資料などの詳細はホームページで確認できます(学術情報センター HP→図書館利用→展示案内→テーマ展示 <http://libwebnagoya-wuac.jp/te-matenji/backnumber/backnumbertop.htm>)。

毎回多くの方が手にとってくれますが、その中でも特にオススメなのが、第4回「レポートから卒論・修論まで～図書館活用法～」と第7回「資格」です。

第4回「レポートから卒論・修論まで～図書館活用法～」はレポートの書き方、文章の書き方、論文作成

のスケジュールや手順についての資料を特集しています。レポートや卒業論文の作成に役立ててください。

また第7回「資格」では、本学がサポートしている資格試験を、各学科別または分野別に一覧にしています。所蔵資料の Link をクリックすると、所蔵している問題集を自動的にキーワードで検索できるようになっているため、ホームページ作成後に追加された新しい資料も検索できます。一覧はホームページで見ることができますので、資格取得を考えている人や試験に向けて勉強している人は、ぜひ参考にしてください。



天白ライブラリーでの展示風景(第7回「資格」)

学術情報センターのホームページについて

今年度より、学術情報センターのホームページが新しく生まれ変わりました。ここでは皆さんに、ちょっと便利になったホームページの機能をいくつか紹介します。このほかにもいろいろな機能がありますので、ぜひアクセスしてみてください(URL: <http://sic.nagoya-wu.ac.jp/>)。

- ① 図書館の各種サービスをインターネットから利用できます。
- ② WebCT へのリンクがわかりやすくなりました。
- ③ パソコン演習室、ライブラリー両方の PC 関連情報がチェックできます。ライブラリーの PC 空き状況も公開しています。
- ④ 学術情報センターからのニュースを随時更新しています。



意見箱を設置しました!



学術情報センターでは、汐路・天白両学舎に意見箱を設置しました。パソコン演習室、自習室、相談室やライブラリーへの意見、要望から感想、学術情報センターへの質問まで気軽に利用してください。意見は携帯電話の QR コードから学術情報センター宛にメールで送信することもできます。寄せられた意見には掲示板と学術情報センターホームページで回答を公表するとともに改善の参考としていきます。学術情報センターを、より利用しやすい施設とするために大いに活用してください。

場所:【汐路学舎】中央館1階ライブラリーブラウジングコーナー、
南2号館1階エレベーターホール
【天白学舎】5号館3階ライブラリー前、2号館4階PC相談室前

名古屋女子大学 学術情報センターだより 第48号 発行日:平成18年10月1日

発行:名古屋女子大学学術情報センター
〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40

●ライブラリーサービス TEL (052) 852-9768
●システムサービス TEL (052) 852-1120